年度 2008 学期 後期	曜日・校時 金 4	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	人間と文化(生命倫理学の諸問題) Humanity and Culture (Problems of Bioethics)		
対象年次 1・2年	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		

担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
担当教員:林 大悟 /Eメールアドレス: daigochan@jcom.home.ne.jp /研究室: /TEL:
/オフィスアワー:講義の行なわれる日(後期の毎週金曜日)午後5時40分から6時まで、非常勤講師室にて

担当教員(オムニバス科目等)	

授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 (500文字)

授業のねらい:

現代社会では、安楽死、人工妊娠中絶、臓器移植などを巡る倫理的な問題が数多く存在する。これらは我々自身の生命に関わることであり、根元的な意味で自由・権利・規範等に関わる問題でもある。このような生命倫理学の具体的な諸問題について考察し、我々の社会のよりよいあり方を考えると同時に論理的な思考を習得する。

授業方法:

ビデオ鑑賞をもとに問題点を取り上げ、それに対する様々な見解を紹介し検討する。可能であればディスカッションを行う。講義毎に、講義内容に対する意見・質問・感想等を書いてもらい、それについてコメントする。

授業到達目標:

様々な見解を検討し、それを踏まえた上で自分自身の意見をもち、それを根拠付ける能力を身につける。

授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300文字)

授業内容(概要)

安楽死、インフォームド・コンセント、人工妊娠中絶、臓器移植などの生命倫理学のテーマについて何が問題になっているかを明らかにし、それぞれについての様々な見解を紹介する。それらを吟味した上で、各人の見解とその根拠「なぜそう言えるか」を提示してもらう。教員はあくまでも中立的な立場に立つので、学生は自分自身の意見をはっきりと持ってもらいたい。生命倫理学のテーマについて考えると同時に、倫理学の基本的なテーマである「自由」「権利と義務」「法と倫理」などについても論じる。

第1回 イントロダクション
第2回 生命倫理学とはなにか?
第3回 安楽死 新たな死のかたち 安楽死と尊厳死
第4回 歴史的背景、権利とは何か?
第5回 安楽死制度を認めるべきか?
第6回 終末医療とホスピスケア
第7回 インフォームド・コンセント 医療における患者の自由の獲得
第8回 インフォームド・コンセントとパターナリズム
第9回 がん告知、輸血拒否の問題をどう考えるか?
第10回 人工妊娠中絶 中絶に関する日本の現状
第11回 中絶賛成か中絶反対か?
第12回 中絶擁護論の検討
第13回 脳死と臓器移植 脳死という新たな死
第14回 臓器不足を以下に解消するか?
第15回 授業の総括(試験含む)

キーワード	
教科書・教材・参考書	参考書:『倫理学を始めよう—論理学からおむつ体験まで』、波多江忠彦監修、木星舎
成績評価の方法・基準等	講義に対する積極的な取り組み状況(配点10%)と学期末試験(持ち込み可)(配点90%)で評価する。
受講要件(履修条件)	受け身の講義ではなく、意見・感想等を積極的交わす講義を目指します。皆さんの自由で活発な発言を期待します。考えることの好きな人大歓迎です。
本科目の位置づけ/学習・教育目標	
備考(準備学習等)	